

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 あいあいの家 ひかり		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 26日		～ R8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	R8年 1月 19日		～ R8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ひとりひとりの発達に寄り添った個別療育を大切にしています。	こどもひとりひとりの状態を、関わる職員みんなで共有・把握し、個々に応じた支援をしています。 こどもの発達・興味に沿ったプログラムを提供できるようにしています。	「楽しい」を引き出すような工夫や関わり方、プログラムの内容について、職員同士でさらにアイデアを出しあえるような話し合いの時間を作っています。
2	グループ学習を通して、就学に向けての準備や経験を重ねています。	同一法人内にある放課後等デイサービスと連携し、小学生になると必要と思われるスキルを見立て、療育内容を組み立てています。	グループ学習だけではなく、2～3人の少人数グループでの学習など、プログラムを充実していきます。
3	木造の広々とした過ごしやすい空間と、プログラムに応じた部屋があります。	利用するこどもが過ごしやすい空間になるよう、必要以上の装飾はせず、情報過多にならない、安心できる空間づくりを心がけています。	常に清潔を心掛け、どの年齢のこどもでも安心して移動したり、活動できるように清掃や片付けを行います。 地域共生の場として過ごしやすいとすると同時に、周辺環境の整備を行っています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や、保育園・幼稚園など、他施設との交流の場が少ないです。	週末には施設を開放しているが、まだ利用される方が少ないので、交流とまでなりません。 地域に、こどもが来やすい、利用しやすい場所としてあまり周知されていません。	SNSなども効果的に使い、利用者や地域に知らせる方法を多様化していきます。 職員ひとりひとりが共生の意識を持って、地域に開かれたイベントの開催や地域活動への参加をしていきます。
2	ペアレントトレーニングなどの家族支援のプログラムが、導入されていません。	ひとりひとりの保護者には、丁寧に対応しているが、親同士の交流や保護者の学び合いの機会が少ないと考えられます。	保護者同士の交流の場や、保護者向けの研修会を増やし、学ぶ・学び合う場を増やしていきます。 母親だけでなく、父親のための勉強会などを企画していきます。
3	研修はありますが、回数が十分ではないと考えられます。	全体研修は計画的に行ってきたが、個別療育における療育内容の具体的な研修が少なかったと考えられます。 研修の案内をもっと多くできるように情報収集していく必要があります。	個々のスキルアップの意識を高め、事業所としての研修の場も増やしていきます。 定例会などで、療育や支援における課題について話し合い、他の職員の意見が聞けるようにしていきます。 事業所外研修の情報なども案内していきます。